

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270202320		
法人名	有限会社グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームやみね		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市矢峰町82-1 (電話) 0956-40-5345		

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成20年1月31日

## 【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	10/11人	常勤 5/6人, 非常勤 5/5人, 常勤換算	7/7人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800円

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	9名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	神谷医院、神谷歯科、松浦病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台にある住宅街の一角に位置する二階建てのホームで斜面を利用して造られた和風の庭は、自然林を模した中に梅・桜・つつじ・紫陽花に竹林を配し、ツワブキの黄色い花と紅葉が晩秋の庭を彩りホーム全体を華やいだ雰囲気包んでいる。四季折々の季節の移ろいを居ながらにして味わえ、この地を譲り受ける時に庭を大事にして欲しいという持ち主の気持ちを大事に受け継ぎ、内外を問わず心安らぐ家庭的な環境が保たれている。職員が手折ってきた庭の小枝や花、畳・フローリング・カーペット敷きの部屋と其々の趣があり、入居者に応じて設備も拡充され快適な居住空間を作っている。知らない土地でのホーム開設に際し老人会々長の勧めで自治会の区長を務めさせて頂き、地域への働きかけに際し会長が尽力してくださり地域のご理解を頂き、交流も深められ地域に根づいたホームの役割を担う事が出来ている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①ホーム庭園の花の満開時に老人会にご案内したり、ホームだよりの町内への掲示を検討し地域との交流を深める取り組みを積極的に行っている②救急法の受講や医師・看護師による勉強会やマニュアルを使った実践研修をホーム内で行っている③入居者と話し合いをしながら好みの色を考慮し表札を掛け替えた④理念の字を大きくして墨書しホール中央に掲示しホームの方針や取り組みを理解して頂けるようにしている</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己・外部評価について施設長が伝え目的や活用法を全職員が理解し、評価表を各自が記入して行く過程で協力体制が強まっていた。項目毎に主任が其々の意見をまとめ施設長・管理者と話し合い一つにまとめた。前回の評価結果に基づき入居者と職員の話し合いの後、施設長・管理者・ケアマネージャー・主任が改善計画書を作成し全員で取り組んだ。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族・入居者代表の方に出席頂き会議の席上でご意見を言われる姿が、入居前を彷彿とさせ職員は感激しご本人も次回の開催を楽しみにされている。防災についての意見が出た際、入居者から安易に禁止にしないで欲しいと云う意見もあり、喫煙時の支援や地域の方に避難誘導等ご協力をお願いしたり、前回の外部評価結果等の報告を行っている。ホームの活動内容について情報提供を市担当者へ継続的に行っていると言いつつも、書類提出や入居者についてのお尋ねや相談に伺ったり、感染症についての勉強会の開催など電話で相談し連携に努めている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>施設長・管理者の考えが職員・家族にも十分伝わっており、来訪時にホームでの様子をお伝えする他ホーム便りに手紙を添え、家族の方が安心できるよう配慮している。意見箱を設置しているが意見を頂いた事はなく契約時に市町村等の相談窓口についてもお伝えし、家族来訪時には面談を行い何かあれば言って頂けるよう繰り返しお伝えしている。全体的な検討が必要なご意見・ご要望を頂いた時は会議で検討し職員間で情報共有している。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム開設前に老人会々長に相談しホーム開設に尽力頂いた事もあり、施設長・事務長・管理者等の地域訪問時にも受け入れはスムーズで、地域のお祭りに参加したり町内清掃に入居者と共に参加している。事務長が町内区長を務め役員会・年末の防火パトロールや町内からの依頼で世話役として旅行にも参加しているが、入居者の参加には至っていない。町内の老人会から慰問の来所希望もあり準備を進めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者第一に思いやりがある明るいホーム、町内と関わりを持ちたいと云う施設長の思いを基に、一人ひとりの人格・個性を尊重し、笑顔の絶えない毎日を住み慣れた地域で、自分らしく安心して生活を送るための支援をする事を、関連ホームの理念を参考にしながらH.16.9開設時に職員と共に作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のケア会議で入居者一人ひとりの個性・人格の尊重について話し合いを行い、常に理念を意識しケア場面に於いても、その方の希望に出来るだけ添えるような支援が、職員の自然な行動となり実践出来ている。毎朝の申し送り時気持ちを引き締めるとい意味合いも含め、職員自ら理念が言葉に出てきて全員で唱和している。	○	本人がどのような気持でいるのか察しながら、理念の唱和を続けると共に日々のケアやケアプランにつなげたいと考えており、更に奥深くにある理念を理解し共有・実践に向けた取り組みに期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設前に老人会々々に相談し開設に尽力頂き、施設長・事務長・管理者等の地域訪問時もスムーズに受け入れて頂いた。散歩時の声かけや地域のお祭り、町内清掃に入居者と共に参加したり、ホーム内のお茶会に地域の方に来て頂いている。自治会・老人会に加入し事務長が町内区長を務め、役員会・年末の防火・トロール・旅行に世話役として参加しているが、入居者の参加には至っていない。老人会から慰問の来所希望もあり準備を進めている。	○	「日頃お世話になっているので何かあれば・・・」と声をかけて頂いており、ボランティアの協力を頂きながら寄り添った支援が必要な方も、何らかの形で行事に参加ができるよう取り組んでいきたいと考えており更なる充実に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に自己・外部評価について施設長が伝え、全職員に評価表を配布し自ら考え話し合い、記入して行く過程で協力体制が強まった。施設長・管理者・主任が話し合い其々の意見を一つにまとめ、前回の評価結果に基づき入居者と職員が話し合い、施設長・管理者・ケアマネジャー・主任が改善計画書を作成し時計の位置を変更したり、表札は入居者と共に色を塗ったり名前を貼って貰う等、全員で現状維持する事や改善の取り組みをおこなった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の方と各ユニットより入居者代表に出席頂いて、会議の席上でご意見を頂き入居前を彷彿とさせる姿を拝見して職員が感激し、ご本人も満足され次回の会議開催を楽しみにされている。出火や初期消火についてのご要望があった際、たばこを喫う事を楽しみにしている方もいるので安易に禁止にしないで欲しいと入居者の意見もあり、喫煙時の支援やスプリンクラーの設置、入居者の方の避難場所迄の誘導等、近所の方々に再度ご協力をお願いしている。	○	入居者・家族・地域の方とも話し合いながら発言者名等、議事録の記名・記録方法について検討し、議題につなげていけるよう更なる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請書等の書類提出時や入居者についてお尋ねしたり、判断しかねる時に相談に伺い対応して頂いている。相談しやすい雰囲気があり、感染症についての勉強会の開催など電話で相談しているが、ホームの活動内容について情報提供を継続的に行っているとは言い難い。	○	ホーム便りを市町村窓口へ持って伺う等、個人情報について家族と話し合いながら検討され、顔馴染みの関係作りや活動について情報提供を継続的に行なわれる事に期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	“家族と一体になって”という施設長・管理者の考えの下“何でも隠さずお話しする”事が職員・家族にも十分伝わっており、来訪時にホームでの様子をお伝えすると共に、金銭出納帳や日々の記録に目を通した後サインを頂いている。状態変化がある時にはその都度電話でお知らせし今の状況を捉えて頂いている。ホーム内全体の暮らしぶりや健康状態について、年数回発行されるホーム便りに状況に応じて担当職員やケアマネジャー・管理者から手紙を添えている。	○	職員の異動は来訪時に責任者から紹介したり自己紹介を行っていたが、特に文書等でお知らせする事はなく「代わられたんですね」という家族からの言葉で気にされている事を知り、今後はホーム便りで報告していく等検討しており今後の取り組みに期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に意見・不満・苦情等を率直に言ってもらえるよう、意見箱を設置しているが意見を頂いた事はなく、契約時に市町村等の相談窓口についてもお伝えしているが、その後は特にお伝えする事はない。家族来訪時には出来るだけ面談を行い“何かあれば言ってください”と繰り返しお伝えし、直接ご意見を頂くことがあり、全体的な検討が必要なお意見・ご要望に関しては会議で検討すると共に記録を閲覧し職員間で情報共有しているが、記録に残していない事もある。	○	推進会議でもご意見・苦情や気づいた事等お尋ねしたり、更に家族の方が何でも言えるような雰囲気作りを今後も続けると共に、相談窓口についても繰り返しお伝えし、積極的にご意見等頂けるよう取組まれる事に期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時に管理者が母体施設より異動してきた他は基本的に異動はないが、本人の希望を優先し柔軟に対応している。離職を最小限にする為休みの希望に極力応じ、行事の後や年末・年始等食事会・職員親睦の場を設けている。職員交代時には入居者の状況やその時々的心情に合わせ説明の仕方を変えたり、新規職員へケアの方法について個人毎の情報を十分に伝え、慣れるまでは先輩職員とケアをするようにしている。職員がユニット間を日常的に行き来し、入居者の状態を把握し全員で協力しながら2ユニットをケアしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者、ケアプラン、感染症について等積極的に外部研修に参加できるような声かけや、ミーティング時に伝達講習を行い希望者に資料配布している。施設長・管理者・ケアマネジャーが現場で助言・指導すると共に、面談や現場での情報を基に職員の得意分野については内部研修を任せ自信につながっている。スキルアップのための情報提供を行い、該当職員は挑戦するように声かけを行っている。	○	自己の目標がはっきりする事で意識が高まり、自己研鑽につながる。本人とも話し合いながら、その人に応じた方向性や内容等個々の研修計画を作成され、更なる質の向上に向けた取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者を相互訪問・見学する事で自分の業務を見直し、感じた事や見た事を新たな認識につなげ“今が全て”という思いから積極的な方向に変えられると施設長は考えており、同業者との交流に積極的に取り組んでいる。グループホーム・介護支援専門員連絡協議会や社会福祉協議会等管理者・事務長・職員が参加し、課題の合同検討や研修会・親睦会の合同開催、相互の行事参加や電話・メールで情報交換を行っている。	○	グループホーム連絡協議会の親睦会に職員も交替で参加していく事で、他ホームの管理者や職員と交流ができ勉強の機会になると考えており、今後更なる積極的な取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者が何度か訪問し顔馴染みの関係を作り、住んでいた所や馴染んでいた物等の情報や、見学に来られた時の利用者の表情・職員との関わりを観察し入居前に暫定の介護計画を作成し、入居後もアセスメントを繰り返しながら計画立案・変更している。納得して入居して頂いているが、帰宅願望のある時は家族の方と連絡を取り合いながら一時帰宅したり、馴染みのある方の面会をお願いしたり、不安の除去に努めると共に楽しんで頂くための工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌や料理法や効率性について教わったり、教えて頂けるような場面作りを心掛け「上手になったね、美味しい」と言われて、もっと頑張ろうと考えるようになったり、戦争体験をお聞きし物の大切さや、食物の有難さについて改めて考える機会となっている。気持ちが沈んだまま勤務している時に「此処に来てよかった、貴方の顔が見れて良かった」等声をかけて頂き、職員は元気を取り戻す等入居者によって助けられている事を実感し共に支えあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	明確な意向が把握できない方についても入居者の生活歴・習慣、趣味等を出来る限り把握し行動・表情から思いを汲みとったり、声のトーンや口調、表情の変化が感じられる時には、他の職員から情報収集し原因を探したり、職員が交代して声かけを行う等その方の笑顔が見られるような支援をしている。どのような気持ちなのか察しながら「良かったらどうぞ」とその気になるように気長に根気良く声かけしていく中で、自発的な行事への参加回数が増えてこられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題・目標が大括りで理解しにくい部分や、地域で暮らすという視点も盛り込まれている方とそうでない方がいる。計画作成時にかかりつけ医や看護師等に相談したり、意向を把握しにくい方についても表情や行動からその思いを汲み取ったり、家族と話し合い気づき等を書いて頂いているが、全入居者に対し意見等を計画に反映出来ていないと言っている。現在行われているケアについても全てを記載していないが、ケアのポイントを記載し利用者が言われた言葉や易しい単語に置き換えられている。	○	入居者一人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の個別・具体的な目標や『地域で暮らす』視点を盛り込むと共に、行われているケアを全て計画に記載する事で、ホームでの生活状況が家族により理解しやすくなるだけでなく、全職員のケアの方法や留意点を統一する事につながる。今後も介護計画の充実に向けて更なる取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者・家族の要望・状態に変化が生じた場合や、話し合いの際の新たな気づきや意見が出された場合、設定した時期の前でも臨機応変に計画の見直しを行っている。定期的見直しについては3ヶ月に1回行い継続時に状況を話すと共に、変化が見られない入居者についても、全入居者についてチェックシートを使用して月に1回程度はケアカンファレンスを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院の医師や看護職員による24時間の相談・連絡体制、独居の方の荷物の入れ替えに自宅に伺ったり、外泊時の準備・日程調整や美容室・病院受診の付き添い、歌手である入居者の娘のコンサートや夜間の帰宅に職員が同行し家族と一緒に数時間過ごしたり満足されるよう支援している。地域の方への支援の取り組みは現状では検討していないが、依頼がある時には当事者の方と話し合いながら柔軟に対応できるよう検討していきたいと考えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関や以前からのかかりつけ医で受診して頂き、初回受診時や何かある時は管理者が付き添い、ホームでの様子等情報提供を行い、その後は職員が通院介助を行っている。協力病院からの定期往診では、かかりつけ医がいらっしゃる方についても顔を見て頂いている。受診時に変化がある時は速やかに結果報告しているが、それ以外は定期報告や来訪時にお話しし、家族が通院介助された時はその都度お聞きしたり、直接先生に電話でお尋ねしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に方針をお話ししている時としていない時があるが、状況に変化がある時には繰り返し話し合いを行い、より良い過ごし方について希望に添えるようにすると共に、かかりつけ医と連携しながら職員とも話し合い、変化について細かく観察し看取りを行っている。病状が悪化され病院で最期を迎えられた方のご家族より“ホームに帰ってきたのではないかと思います”と言われ、ホームに最後のお別れに來られ入居者も職員と共に数珠を持ってお参りをされ、その後も混乱する事無く安定した生活を送っている。	○	重度化や急変時の方針について入居時に説明し意向を把握するだけでなく、その時に最良な対応方法について等家族教育も含め繰り返し話し合い検討し、不安な家族の気持ちを受け止めながら支援されるよう更なる取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言を使う時も目上の方への尊敬の念を持って接し、自分で出来る事はして頂き、排泄時の見守りも安全を考慮しながら少し距離を置く等、自尊心・羞恥心に配慮している。居室入室時はノックや声かけをし、繰り返しの言動にも否定や指導的な言動はせず人格・個性を尊重した対応をしている。個人情報に触れる話を第三者や来訪者の耳に入るような場所でない事は勿論、メモ紙の処理等個人情報の漏えい防止について徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるような声かけは行いが無理強いせず、習慣やその日の体調・気分を尊重し“今日はどうされますか、したい事はありますか”とお尋ねし、その日の予定をお伝えする等生活の行動パターンを把握し対応している。食事や家事等にかかり時間がかかる方にも健康に支障のない範囲で納得される迄ゆっくり最後迄して頂き、希望を表わされない方にも楽しみや喜びを感じて頂けるよう言葉かけ等意識し、興味あるものを見つけて取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	“今日は何がいいですか?”と尋ね食材の買い出しに同行して頂いたり、皮むきや根切り等の下ごしらえや味見、できる部分での盛り付けや配膳・下膳、食器洗い・後片付け等を手伝って頂いている。菜園で採れたもの・摘んで来た山菜等、旬の食材を取り入れ食事制限等についても器や盛り付けを工夫し、他の方と見た目が変わらないようにしている。職員も一緒に食卓につき食べるものを薦めたり、必要な介助をしながら美味しく戴く為の楽しい雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や回数がある程度決めているが入居前の習慣をお聞きし、夜間の入浴を希望される時にはシャワー等で対応したり、本人が好む順番や個別のシャンプー・石鹸、希望する方には踵の手入れや好みのお入浴剤を使用している。一人での入浴や同姓介助、危険がない部分については職員も浴室から出て扉の外から様子を窺う等、気持ち良く入浴して頂けるよう配慮している。入浴の楽しみとして菖蒲湯やゆず湯、銭湯や温泉に行く事を取り入れている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	足・腰の痛みの為姿勢が難しい部分もあるが草抜き等出来る範囲ですて頂き、一人ひとりに役割・楽しみ事を持って頂けるよう働きかけをしている。居室の掃除機かけや家事、食事の声かけ、大正琴の練習・漢字の書き取り・囲碁・読書、広告のごみ箱やメモ紙作り、衣服の繕いや縫物等本人の気持ちや活力を引き出せるような場面作りを積極的に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	習慣とされていた外出を入居時にお聞きし、近所の公園・お宮等入居前から馴染んでいた場所への散歩や饅頭屋・美容室等行きつけの店へ職員がお連れしたり、家族の協力を頂きながら支援している。気分転換や五感刺激の為に戸外で過ごすようにしているが、歩くのを嫌がられる方はドライブに誘って歩いて頂く機会を作っている。外出の日や時間帯・行き先等希望をお聞きしたり、習慣や関心事を踏まえて気持ちを察して対応するようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全確保の為使わない出入り口については常時施錠しているが、21:00～7:00迄の防犯上の施錠以外は行っておらず、エレベーター等は入居者が自由に使える状況である。プライバシーの侵害・音による行動制限に配慮し、玄関にセンサーを付けたり職員が作業する場所、立つ向き工夫により行動を把握し、見守りを強化したり事前に対応策を取っている。入居者が1人で外出した際も近所の方に見守りや連絡の協力依頼を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一昨年消防署の方と共に避難訓練を行い、その後は年に1回職員・入居者で火災を想定した避難訓練を実施しているが、地域の方への参加依頼は行っていない。隣近所の方には管理者・事務長から協力依頼をすると共に自治会・老人会・民生委員の連絡体制は出来ており、ホーム周辺の地域の方と合同の避難訓練が予定されている。	○	想定される事への対応策を踏まえて、災害に備えた必要な物品や量について検討されると共に、地域の方の協力体制についても担って頂く役割や、役割遂行する為の方法について等地域の方と共に話し合い、今後の充実に向けた取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	制限のある方については別に味付けしているが、好みのもの・本人にとって美味しいものを食べられるように、味付けを変えたり別皿に盛ったり飲み物の種類や、時にはおやつを選べるようにしている。食事量・飲水量の記録を行い毎月の体重測定や書籍・資料等を参考にし管理者(看護師)に相談しながら献立を作成している。摂取量が少ない方には盛り付け量を少なくしたり、好みの食べ物や時間を気にせず食べて頂いている。	○	1600Kcalの食事を基本にしているが、体重・体格・活動量等で主・副食の量を調整し、市へ相談したり施設長の家族の栄養士に相談する等バランスのとれた食事に配慮すると共に、今後必要な摂取エネルギー量等、個別に検討される等更なる取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時にはその都度職員が調節しているが、カーテンは入居者が自由に開閉できるようにしており、TVも点けたり消したり自由に行っているが、音の大きさに配慮しさりげなく調整している。季節の花を飾ったり絵やカレンダーを貼って家庭の雰囲気を作り、臭いや空気の淀みがないように随時窓の開閉を行うと共に、常に換気扇を作動させ居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの部屋やカーペット、仏壇・位牌・神棚等自由に持って来て頂き、個性的な部屋作りになっており心地よい生活空間となっているが、今後も継続的に馴染みの物を持って来て頂くように常にお伝えし、本人にとって居心地良い過ごせるよう維持・継続している。		